

☆うるま市の  
名産品  
特産品  
推奨品

☆うるま市の祭り

☆史跡  
☆遺跡  
☆文化財

☆その先のうるまへ

☆うるま偉人伝

☆伊計村遊草の風景

# うるまの 宝物



# Festivals & Events

うるま市では、一年を通じて様々な祭りやイベントが催されています。

最も大きな祭りといえば「うるま祭り」(10月)。地域の伝統芸能、闘牛、ライブなど、見所満載の祭りです。

そのほかにも、海中道路をコースに行われる「あやはし海中ロードレース大会」(4月)、「各地のハーリー大会」(6月)、「うるま市エイサーまつり」(旧7月)、「全島獅子舞フェスティバル」(9月)、「うるま市産業まつり」(12月)、「春の芸術祭」(1月)など、スポーツ、文化・芸術、産業と幅広い分野で、多彩な祭り・イベントが催されています。また、沖縄県闘牛連合会主催の闘牛沖縄一を決める「全島闘牛大会」(5月、11月)が開催されます。

In Uruma City, various festivals and events are held throughout the year. The largest festival is the Uruma City Festival in October, featuring performing arts, bullfighting, live concerts and a full schedule of noteworthy entertainment.

Many other colorful festivals and events spanning a wide area of interests including sports, culture, fine arts, and industry are also held, such as the Ayahashi Road Race through the Sea Tournament in April, in which a road race takes place along the "Road through the Sea," local Hari (Dragon Boat) competitions in June, the Uruma City Eisa Festival in the month of July according to the lunar calendar, the All Okinawa Lion Dance Festival in September, the Uruma City Industrial Fair in December, as well as the Spring Art Festival in January.

In addition, the All Okinawa Bullfighting Tournaments where the top fighting bull in Okinawa is determined are held in May and November under the sponsorship of the Okinawa Prefecture Bullfighting Federation.



うるま市の祭り

華あり!  
技あり!  
見応えあり!

うるま祭り



Sea Art フェスティバル

春の芸術祭

青年エイサーまつり

うるま市産業まつり

産業まつり

全島獅子舞フェスティバル

闘牛

ハーリー大会

あやはし海中ロードレース

# Festival





## 伊波貝塚

昭和47年5月15日指定

おおよまかしわ  
大正9年、大山柏氏によって発見された貝塚。出土した山形の口縁部に4個の突起をもつ平底の深鉢形をした土器は、伊波式土器と称され、縄文後期(紀元前3500年)を代表する標準土器として知られています。



## 仲原遺跡

昭和61年8月16日指定

縄文時代晩期(2400年~2500年前)とみられる石囲の竪穴式住居跡。規模は2~3m、4~5mで約1~2坪の正方形でまとまった集落が、保存のよい状態で東西にかけて直線上にんでいます。土器、石斧、磨石、凹石、骨製品、貝製品などが出土、人骨も5体出土しています。

# 県指定文化財

Cultural assets



## 勝連間切南風原村文書

昭和52年3月15日指定

勝連南風原には明治20~30年代に作成された地割関係の文書(冊子68冊、地籍図29葉)が保存されています。なかでも明治29年(1896年)の地割関係の文書は従来の土地制度関係史料には見いだせない新史料が含まれており、地割が農村において実施された具体的な過程を知る貴重なもので、近世、近代の沖縄の農村経済制度を知る重要な史料です。



# うるま市の 史跡・遺跡・文化財



## 安慶名城跡

昭和47年5月15日指定

自然の断崖と急傾斜を巧みに利用した山城。外側と内側に二重の石垣を巡らす、県内では珍しい輪郭式のグスクで、築城時期の詳細は不明。伝承では14世紀頃、安慶名大川按司の築城ともいわれています。

## 国指定史跡

Cultural assets

私たちの祖先が長い歴史の中で育て、伝えてきた文化遺産。

うるま市には、琉球の開闢神話にまつわる史跡から、数千年前の住居跡、グスク時代、琉球王朝時代、そして近代にいたるまでの史跡・遺跡が数多く残っています。うるま市ではこれらの史跡・遺跡を歴史・文化遺産として大切に守り、その価値を後世に伝えていきます。

### Historic Sites, Ruins and Cultural Treasures

In Uruma City, numerous historic sites and ruins survive from the gusuku (castle) period, Ryukyu Dynasty, and more recent times, ranging from historic sites linked with Ryukyu creation myths to habitation sites of thousands of years ago.

Uruma City protects these historical sites and ruins with great care as vestiges of the City's cultural heritage and history, a value that will be passed on to succeeding generations.

# 市指定文化財

Cultural assets



## ワイトウイ

ワイトウイは勝連平安名の南西部に築かれた断崖を掘削した農道です。岩を割って取ったという意味から「ワイトウイ」と呼ばれていますが、正式には比殿農道といひます。かつては急崖の山道を上り下りしていましたが、村人の苦難を解消するため、岩山をトングアー(金鉏)とカニガラ(石割棒)など人力だけで150mもくりぬぎ、1932年から3年の歳月を費やして完成しました。





## ガーラ砦

昭和3年(1928年)の大典記念(昭和天皇の即位記念)の年、ガーラー山を切り開いてガーラ川に架けられたアーチ型の石砦。長さ5m、幅2m、川底からの高さ5mに造られており、上に重圧がかかるほど石砦がしまってますます固くなっていくといわれています。



## 平敷屋タキノー

1727年脇地頭としてこの地に配せられた平敷屋朝敏は、水不足にならむ農民のために、ため池をほりました。その時ほり出した土を盛り上げ築いたのがこの丘だと伝えられています。1986年には、和文学者であった朝敏の歌碑記念碑も建立されました。



## ヤンガー

宮城島の上原にある湧水。1849年頃に造られたと伝えられています。泉の内部はトンネル状に石が組まれ、湧き口まで続いており、沖縄の石造建築技術が優れているのを示しています。毎年正月に清水を取る習わしであるウビナリーがあり、各門中がヤンガーを拝み、健康祈願を行います。



## 嘉手苺観音堂「かてかるかんのんどう」

真言宗の僧・日秀上人(1503年～1577年)が創建したといわれる観世音菩薩を祀る御堂。口碑によると、五代伊波按司は信心深く、金武に来ていた大和の僧に勧進して観音堂を立てましたが2回も火災にあつたため、嘉手苺に移転させたといわれています。



## 大田坂

今から約200年ほど前にあかぼんだ掟、玉城親雲上、上門小ビニーの三者の企画と設計で施工され、地元や近隣の住民から資材の協力を得て完成したと伝えられています。幅2～3m、全長300mにおよび、石灰岩を敷き詰めた石畳で、首里王府から各間切間の伝達に利用された道で、宿道(現在の国道にあたる)としても利用された歴史の道です。



## 沖縄諮詢会堂跡「しゅんかい」

沖縄戦後初の政治機構、沖縄諮詢会の会堂跡です。沖縄諮詢会は、昭和20年8月、米軍政府に招集された各地区収容所の住民代表が行った投票において、15人の委員が選出され発足しました。昭和21年4月の沖縄中央政府発足により、その機能が東恩納に移るまで使用されていました。

## 平敷屋製糖工場跡



平敷屋製糖工場跡は、昭和15年(1940年)に勝連平敷屋地域の11組の旧サーターヤー組が合併して新設された共同製糖工場です。

近代の沖縄では甘藷搾りに畜力を用いる伝統的な来製糖場と、機械を用いる改良製糖場が共立していましたが、昭和3年(1928年)以降、共同製糖場の設立が増えました。そのような中で、蒸気を原動力とし、共同製糖場の経営方式をとる平敷屋製糖工場が設立されました。聞き取りによると、工場建物は南向きで、その前面に3基の煙突が立ち、煙突の一つは蒸気機関のボイラーにつながり、燃料には石炭を使用したとあります。昭和19年(1944年)の十・十空襲以降、工場は操業できず、その後、米軍の攻撃で破壊されました。現在、工場跡には煙突1基、貯水槽1基が残存しています。煙突は煉瓦造りで、高さが約16.3m、煙突表面には銃痕が残り、貯水槽はコンクリート造りで、平面は9×10.5mの略長方形で、深さが約3mです。

平敷屋製糖工場跡は、近代の沖縄の糖業史と技術展開を知る上で価値のある遺跡であるとして、平成27年(2015年)1月26日、国登録文化財として登録されました。



## シルミチュー

浜比嘉島の南南東の森の中にあり、琉球開闢伝説の神シルミチュー・アマミチューが住んでいた場所と伝えられています。アマミチューの墓と同様に、年頭拝みが行われます。洞窟の中にある鍾乳石は、子宝の授かる霊石として拝まれています。





# うるま

Uruma Biography

# 偉人伝

## うるま市の歴史に 名を残した人たち

琉球王国時代から現代に至るまで、うるま市地域からは多くの偉人が輩出されました。

その中で、地域だけでなく沖縄の発展にも寄与した4人の偉人を紹介します。

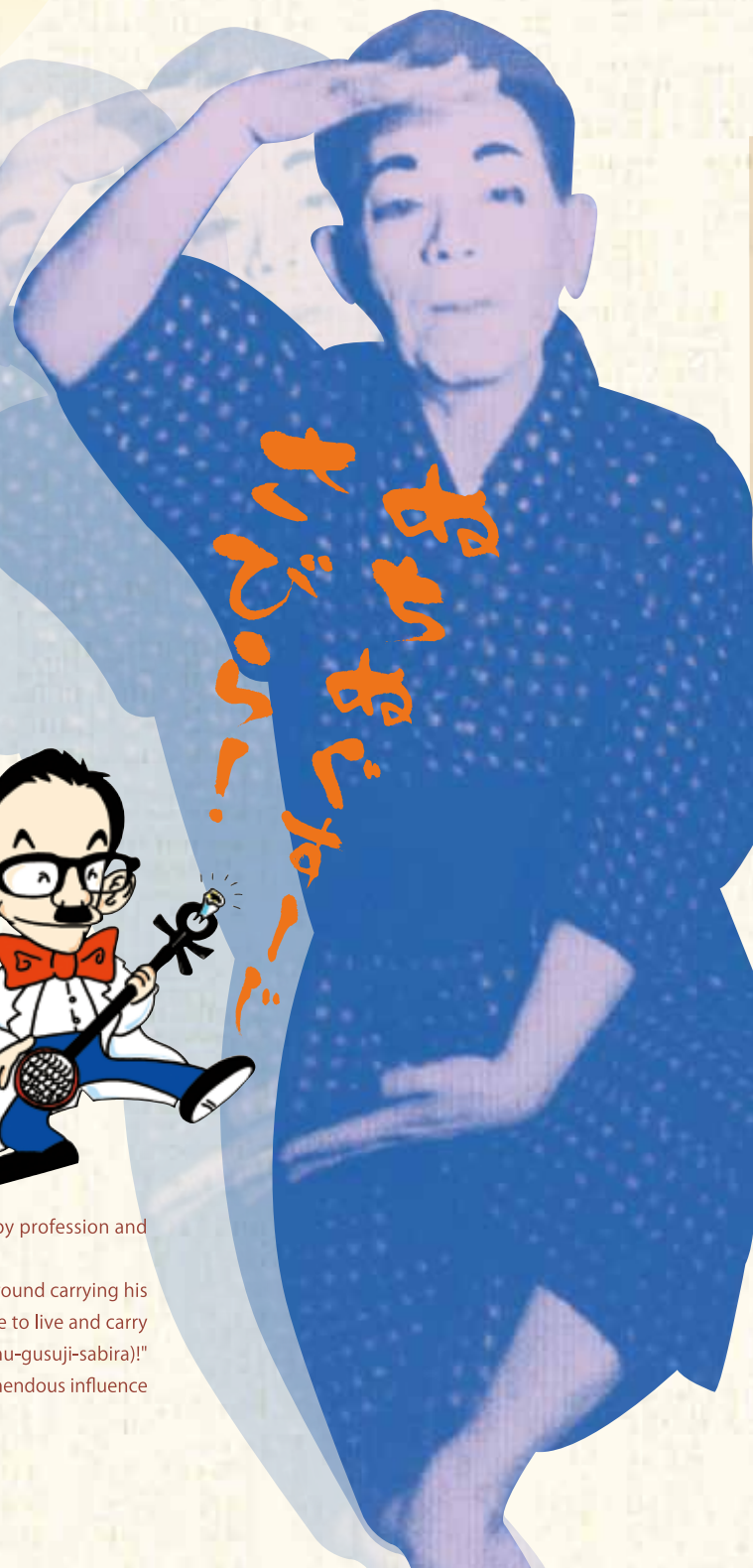
### Tales of Great Men

From the days of the Ryukyu Kingdom up through modern times, many eminent figures have emerged from the lands making up Uruma City. Here are four of the great people who contributed not only to the community, but also to the development of all of Okinawa.



おなは・ぜんこう (ぶーてん)  
1897 ~ 1969 琉球芸能の達人  
**小那覇 全孝 (舞天)**

笑いで戦後復興を支えた  
沖縄のチャップリン



### 命のお祝いをしましょう

戦後、嘉手納より石川へ移住。本職は歯科医であったが、プロ顔負けの琉球芸能の達人。終戦直後の荒廃したなか、三線を片手に家々を訪ね歩き「生き残った者が、元気を取り戻さないといけない。さあ、命のお祝いをしよう(ぬちぬぐすーじさびら)」と「笑い」と「ユーモア」で人々に生きる希望を与え続けた。後に沖縄のチャップリンと称され、戦後沖縄の芸能と地域社会の復興に多大な影響を与えた。



### Zenko (Bu-ten) Onaha, 1897 ~ 1969

Zenko Onaha moved from Kadena to Ishikawa after World War II. He was a dentist by profession and such a skilled performer of Ryukyuan arts that he could put even professionals to shame.

Amidst the devastation right immediately after the end of the war, he would travel around carrying his sanshin went from house to house. With his smile and humor, he gave people the hope to live and carry on, saying "We survivors have to pick ourselves up and live again. Celebrate life (nuchinu-gusuji-sabira)!" He later came to be known as the "Charlie Chaplin of Okinawa." Zenko Onaha had a tremendous influence on the post-war restoration of local communities and the performing arts in Okinawa.





1884~1955  
教育者・沖縄民政府初代知事

志喜屋 孝信  
しきや・こうしん

沖縄再建に尽力した、人道学博士

## 住民の利益と幸せを願って

沖縄県立第二中学校校長を経て、沖縄で初となる私立開南中学校を創設するなど、教育のために情熱を注いだ県教育界の第一人者。また、終戦後の昭和21年、沖縄民政府の初代知事に就任し、戦後沖縄の復興に努めた。昭和27年には琉球大学の初代学長に就任。多くの人材を世に送り出した。

### Koshin Shikiya, Educator and First Governor of the Okinawa Civilian Administration, 1884 ~ 1955

After serving as principal of the Okinawa Prefectural Daini Junior High School, he led the Okinawa educational community through his enthusiastic commitment to education, founding Okinawa's first nongovernment institution, Kainan Junior High School, among other achievements. He also took office as the first Governor of the Okinawa Civilian Administration in 1946, and devoted himself to the postwar recovery of Okinawa. In 1952, he was installed as the first president of the University of the Ryukyu. His dedication cultivated many, many talented people and sent them out to serve society.

## 才能に恵まれながらも、波乱の人生を歩む

組踊「手水の縁」の作者。薩摩支配下における苦難の時代、士族という身分におごることなく、農民など弱い立場の人たちに温かい眼差しを向けることができた沖縄近世随一の和文学者。1727年、脇地頭として平敷屋に配され、水不足に悩む農民のために溜池を掘削し、掘り起こした土を盛り上げて築いたのが「平敷屋タキノ」である。

### Chobin Heshikiya, Scholar of Japanese Literature, 1700 ~ 1734

Chobin Heshikiya authored the Kumi-odori dance "Temizu-no-En." He was the greatest scholar of Japanese literature in modern Okinawan history. During the period of hardship under the rule of the Satsuma Clan, he was modest about his status as a member of the samurai class and looked with warmth to farmers and others in need by providing them assistance. In 1727, he was stationed in Heshikiya as the steward of the land and dug reservoirs for farmers worried about water shortages. The "Heshikiya-takino" mound was built with the dirt removed to make these water basins.

沖縄芝居に影響を

及ぼした、和文学者

平敷屋 朝敏  
へしきや・ちようびん  
1700~1734  
和文学者



※イラストはイメージです。



1884~1935  
医師・県会議員

真鏡名 安明  
ましきな・あんめい

護岸整備の必要性を訴え続けた、立役者

## 安定した人々の暮らしを目指して

医師として住民の健康管理を担う一方、地域の教育、行政、経済の発展に尽くそうと昭和4年に県会議員に立候補し当選。与那城地域の農耕地の保全を図るため、昭和8年から実施された「沖縄県振興15カ年計画」を当地域に誘致し、海岸線全域の護岸工事、耕地整理事業、土木農道、河川工事等に尽力した。

### Anmei Majikina, Physician and Prefectural Assemblyman, 1884 ~ 1935

As a physician, Anmei Majikina had the responsibility of caring for the health of residents, yet he also ran for and was elected to the Prefectural Assembly in 1929 with the goal of improving the regional economy, municipal administration and education. To preserve the farmlands in the Yonashiro district, he was able to have the area included in the Okinawa Prefecture 15-Year Promotion Plan. He devoted his energy to the work of constructing embankments along the entire coastal area as well as promoting farmland consolidation projects, public works programs, farm roads, and river projects.



## Scenes from "Ikei Mura Yuso"

### Following the Footsteps of Sai Taitei

"Ikei Mura Yuso" is a collection of Chinese poems that Sai Taitei, a poet who composed traditional Chinese poems that lived during the last days of the Ryukyu Kingdom, composed in 1849, depicting the scenery on his way to Ikei Village (Ikei Island), which was then his father's domain. The collection was first identified in 2012.

The collection comprises 30 poems, of which 20 are works penned in Uruma City.

Here, we follow the route that Sai Taitei took as he walked to Ikei Village and his thoughts as he contemplated the scenery.

# さいたいてい 蔡大鼎の足跡をたどる

伊計村遊草は、琉球王国時代末期の漢詩人である蔡大鼎（伊計親雲上）が一八四九年（道光二十九年）に父の領地である伊計村（伊計島）に赴く途中の風景を詠んだ漢詩集で、二〇一二年（平成二十四）に初めて確認されました。収められている漢詩は全部で三十首。そのうち二十首はうるま市内で詠まれた作品です。蔡大鼎が見た風景を想い、歩いた道をたどりました。

## 渡平安座長江

欲渡桃原一葉舟、  
沈浮人在鏡中遊。  
仰看雁陣排空出、  
却爲驚寒唳不休。

「訳」

平安座の長江を渡る

一艘の小舟に乗って、桃原（宮城島）へ渡ろうとした。小舟は波間に浮かんだり沈み込んだりするが、舟に乗る私はまるで鏡の中を行くようである。空を見上げると、隊列をなして飛ぶ雁は、天空を駆け上がっていく、そのため、かえって上空の寒さに驚き、鳴き声が止まらない。

## 登池味山望伊計

〈池味村名〉

瞥見孤村島嶼東、  
人家萬井樹干叢。  
天然一幅江山畫、  
盡入遊人望眼中。

「訳」

池味の山に登り伊計島を眺める

〈池味は村の名である〉

島々の東側に孤立した村落が目に入っている。人気が集まっており、樹木が群がっている。自然が提供してくれた山水画の一幅といえるほどの素晴らしい景色で、すべてが旅人である私の眼中に入ってくる。

## 伊計犬川泉

〈此泉犬所求、故曰犬川泉〉

涓涓谷口湧甘泉、  
清爽聲如漱玉傳。  
山犬于今何處去、  
當年勝跡尚依然。

「訳」

伊計の犬川泉（この泉は犬が探し出したので、犬川泉と言う）

谷の入り口に甘い泉が細々と流れ出ている。その流れは清く爽やかで、玉を鳴らす音が伝わってくるようである。犬が発見したと伝えるこの泉であるが、その山犬は今どこへ行ったのか。その名を冠した泉は、当時のままであるのに。



# 伊計村遊草の風景

記・高津孝

## 南原水田

〔南原村名〕

萬頃江田一望中、  
延袤阡陌目交通、  
遙知今歲歌豐稔、  
合穎嘉禾處處同。

〔訳〕

南原の水田（南原は村の名である）  
ここからは、万頃にも広がる河口拓地の水田が一望のもとにあり、縦横に広がるあぜ道を行き交う人の往来が目に入る。遠くから、今年も豊作であると歌う歌声が聞えてくるが、いま琉球は豊作で、瑞祥である合穎（一つの茎に二つの穂）や嘉禾（穂の多く付いた稲）があちこち同じように見られるのである。

## 登勝連城懷古

崔嵬城郭九霄鄰、  
比日登臨感慨頻、  
舊址依然風景異、  
寒鴉空自噪荒闌。

〔訳〕

勝連城に登り昔のことに思いを馳せる  
勝連城は、ごつごつとして険しく、天空に隣り合うかのように高くそびえている。この日、私は勝連城に登ったが、過去の歴史を思い出すと、感慨があふれてくる。古い遺跡は過去のままであるが、周りの風景はすっかり変わってしまった。寒空に舞うカラスだけが、空しく荒れ果てた城門で騒がしく鳴いている。

## 過與那城濱

十里江濱一望平、  
數羣水鳥自飛鳴、  
遠村露出于章樹、  
恩納高山海外橫。

〔恩納、群名。〕

〔訳〕

与那城の浜辺に立ち寄る  
五キロも続く砂浜を一望すれば平らかで、数むれの水鳥がそこで飛び鳴いている。遠い村里が、クスノキの向こうに姿を現し、恩納の高い山が、海（金武湾）の向こうに横たわっている。（恩納は間切りの名である。）





豊富な水、豊かな大地、美しい海に生まれ、人々が愛情を込めて作った特産品。  
うるま市の風土と、人々の知恵が作った名産品。  
どれもうるま市自慢のものばかりです。



## みほそまんじゅう

うるま市だけで栽培されている沖縄在来茶「山城茶」の茶葉を白あんに練りこんだまんじゅう。お茶特有の味と香りがあり、甘さを控えたヘルシーなお菓子です。第23回全国菓子博覧会で栄誉大賞を受賞しました。



## 黒糖屋さんのミックスナッツ

ピーナッツ・アーモンド・カシューナッツに沖縄の粗糖・黒糖と、沖縄の海水から生まれた「ぬちまーす」を軽くからめたお菓子。ほんのり塩味だからおやつやおつまみにもぴったりです。



## りゅうか グアバ入水饅頭粒香

完熟のグアバの果実が入った風味豊かな水饅頭。半透明の水饅頭の中に、白あんとグアバの果肉が入っていて、弾力のある食感と、グアバの香りと歯ごたえが特徴。第22回全国菓子博覧会で栄誉大賞を受賞しています。



## 沖縄の海塩ぬちまーす

宮城島沖の太平洋の海水が原料。世界初の特許製法で、海水を霧状にして空中でミネラル分を結晶化させたパウダー状の塩です。苦味、甘味、旨みのバランスに優れ、沖縄サミット首里城晩餐会の料理にも使用されました。



うるま市の  
**名産品**

## ブランド豚肉 美ら海豚

沖縄産のモズクが入った特製飼料で飼育された「美ら海豚」は、一般の豚と比べてコレステロール値が低く、脂肪酸が少ないため豚特有の臭みがありません。タンパク質やミネラル分が豊富に含まれ、赤肉に甘味があり、脂肪にも味があります。



## あまSUN(中晩生柑橘「天草」)

品種名の「天草」と、沖縄の太陽をイメージして命名されました。密度の高い果実と甘くて濃厚な果汁が特徴。12月頃の収穫時期だけ店頭で販売されるため、「まぼろしのミカン」として話題になっています。



## 小ギク

沖縄は日本でも有数のキクの産地ですが、特にうるま市では電照キク栽培が盛んです。開花調整のために、夕方から夜にかけて、電照に浮かびあがるキク畑の光景が、市内各地で見られます。



## やまいも(やまんむ)

石川・具志川地域では毎年12月頃になると、各自治会でやまいも一株からとれる総重量を競い合う「やまいも勝負」が行われます。やまいもは沖縄料理やお菓子などに欠かせない食材の一つです。



## 山城茶

沖縄で唯一残っている在来種の緑茶。香りとのど越しがよく、ビタミンも豊富に含まれています。生産量が少なく、店頭にもあまり出回らないため、幻のお茶ともいわれています。





## Local Specialties and Signature Products

Specialties are made by the people of Uruma City with great passion, borrowing from the blessings of abundant water, rich land and the beautiful sea. Signature products are created by the wisdom of the residents in conjunction with the natural features of Uruma City. Both boast of the pride held by the people of Uruma City.



津堅にんじん

国・県拠点産地に認定されているブランドにんじん。カロテン豊富で糖度が高く、甘味があります。産地の津堅島では、海のミネラル分が溶け込んだ畑の土に、海草をすき込こんで無農薬栽培しています。



沖縄小雪

黒糖の風味をいかしたまま、特殊製法で微粉末にした黒糖。さわやかで上品な味とほのかな香りは、コーヒーのほか、料理やお菓子づくりにも最適です。

### うるまの埋蔵金(黄金芋まんじゅう)

うるま市で取れる黄金芋をふんわりケーキで包んだ、甘さ控えめの饅頭。「ぬちまーす」を入れた餡はコクのある味。饅頭の皮の上にかけてられたはったい粉が懐かしい風味に仕上げられています。第26回全国菓子大博覧会芸術部門で名誉総裁賞を受賞しました。



琉球三線・胡弓

竿材の中でも最高の品質といわれている八重山黒木を使い、この道40年を超える職人が、常に棹材との対話を心がけ、永く愛されるようにと願いながら型を正確に保ち完璧な型へと仕上げている三線や胡弓は、楽器としてだけでなく、工芸品としての美しさが追求されています。

### 真鯛・沖縄ミーバイ(ヤイトハタ)・スギ

宮城島沖では沖縄ミーバイ、スギ、真鯛が海面養殖されています。沖縄ミーバイは和名「ヤイトハタ」という高級魚。別名「黒カンパチ」と呼ばれているスギは、沖縄の魚の中でも珍しく脂がのり、栄養成分もカンパチとほぼ同じ。真鯛はタンパク質をはじめ栄養分が豊富な魚です。



真鯛



沖縄ミーバイ(ヤイトハタ)



スギ



照間ビーグ

ビーグとは沖縄の方言で畳の材料となるい草のこと。照間のビーグは150年の伝統をもっています。本土産のい草よりも茎が約2倍も太いので吸湿性が高く、蒸し暑い夏もベタベタしません。泥染めをせず、完全無農薬で作られるので環境にも人にも優しい草です。



オクラ

うるま市は2005年、県のオクラ拠点産地に認定されました。オクラはカルシウム、鉄、カロテン、ビタミンCなどを含み、夏バテ解消に最適な夏野菜です。

旧与那城町の町長が県外で発見したイモを伊計島に持ちこんで栽培が始まりました。ねっとりとした食感と甘みが人気で、デザートなどの素材としても活用されています。

黄金イモ



もずく



うるま市は全国一のもずくの産地です。サンゴ礁に囲まれた美しい海で育つうるま市のもずくはたくてしっかりした歯ごたえがあり、低カロリーでミネラルや食物繊維が豊富な自然食品です。

# うるま市の 特産品





Interview /



## 木に恥ずかしくない仕事を



### 三線職人 てるや かつたけ 照屋 勝武さん

三線の最も重要な棹の部分は黒檀こくたんから切り出しますが、この時、木目に合わせる事が大切です。どのように切り出すかは経験で学ぶしかありません。三線の型や音色は、作る道具の質が良くなっているのです、昔に比べると確実に洗練されています。しかし、今でも100%自分が納得のいく三線はできません。

平成22年に結成された沖縄県三線制作組合の事業の一つに棹の材料になる黒檀の植林があります。今植えた木が材料として使えるようになるには100年くらいかかります。今は、これまでの蓄えがありますが、なくなったらもう三線は作れません。他の材料を使う方法もありますが、それでは本来の三線ではなくなってしまいます。

誰にも負けないものを作りたいし、これからも木に恥ずかしくない仕事をしていきたいと思えます。

もずく生産量日本一のうるま市の新しいご当地グルメ

## うるまもずく チャンプルー丼



▲うるまもずくチャンプルー丼にウェルカムドリンク、もずくしゃぶしゃぶ、その他の副菜がセットになった「もずく美味御膳」は、キャッスルハイランダー、海の駅あやはし館の旬鮮レストランでお召しあがりいただけます。

Interview /



### キャッスルハイランダー

### とうやま よしあき 総料理長 當山 吉明さん なかむら つよし 副支配人 仲村 剛さん

沖縄でもずく料理というと酢の物と天ぷらくらいですが、「うるまもずくチャンプルー丼」はもずくをメイン料理にしたご当地グルメです。特産品を活用した「新・ご当地グルメ」を提唱するじゃらんリサーチセンター・エグゼクティブプロデューサーのヒロ中田さんの指導を受け、地元の料理人たちがアイデアを出し合って試食会を重ね、1年以上かけて2013年に完成しました。初めて食べられる方は、その華やかな見た目とこれまでなかった味に2度驚かれますね。食材は米以外はすべて県産品で、そのうち、もずく、紅芋・黄金芋、塩、もろみ酢、しその葉はうるま市産です。

もずくのまち・うるま市をPRするためにも、多くの人に食べていただきたいですね。





## うるま市の推奨品

商品名	種目	製造
竪琴(うるまの竪琴)	工芸品	てるる詩の木工房(木の工房空陽)
島ネ口	食品	島ネ口研究所
こがねチャンまんじゅー	菓子	黄金茶屋
いその水雲、モズフル	菓子	ケーキのトミーズ
津堅にんじんロール	菓子	レストランB・B・R(パティスリーR)
うるまジェラート	アイスクリーム	株式会社 たみくさ
恋のやまいも・津堅にんじんロールケーキ	菓子	有限会社 プティ・フル
もずくパン	食品	
山いも入りシフォンケーキ	菓子	株式会社 海邦商事
むちむちなご・アールグレイな紅茶黒糖	黒糖菓子	
沖縄の地釜炊き黒糖・きび太郎	黒糖	
黒糖ココア	調整ココア	
黒糖屋さんの黒糖しょうが湯	しょうが湯	勝連きむたか加工所
にんじんゼリー(キャロットゼリー)	食品(ゼリー)	
もずく佃煮	食品(佃煮)	手作り加工所 あやかりん
もずっこ	食品	
島ぶた黒糖肉みそ	食品(味噌)	株式会社 万鐘
浜比嘉塩	塩	株式会社 高江洲製塩所
グアバ茶	お茶	農業組合法人 グアバ生産組合
イカの塩辛(すみ漬け)	食品(漬物)	津堅みやらび(津堅構改センター)
イカの味付	食品	
のに美人茶	お茶	農業生産法人 有限会社たいよう
のに元気ジュース	食品(清涼飲料)	
うるま茶	お茶	農業組合法人 沖縄県薬草協同組合
春ウコン粒	健康食品	
山城紅茶No.9 2 7 (コク重視)	お茶(紅茶)	農業生産法人 株式会社沖縄紅茶農園
びいく織り(コースター、花びん敷、カード入れ、マット、しおり)	工芸品	蘭からふ工房
玄米ホットバックmini	ホットバック	サポートセンターアジュテ
紅型染めハンカチ	工芸品	紅型Lab 邦
キング110m、ジャンプ、オキナワタオルペーパー、コアゴールS、コアゴールW、ローズアロマ、守礼紙銭(打ち紙)、ロイヤル、昭和、花笠	製紙	昭和製紙株式会社
松藤30度古酒	泡盛	崎山酒造廠
松藤限定古酒43度	泡盛	
松藤古酒ブレンド25度	泡盛	
生しぼり沖縄タンカン梅酒	リキュール	
赤の松藤(黒糖酵母仕込み)	泡盛	
琉球もろみ酢黒糖入り無糖タイプ	もろみ酒	
松藤25度、松藤30度	泡盛	
加工嘗みそ(沖縄薬膳味噌)	食品(味噌)	
暖流古酒30度	泡盛	
うめかおる	清涼飲料水	有限会社 神村酒造
暖流25度(闘牛ボトル)	泡盛	
守禮原酒51度	泡盛	
清酒本醸造 黎明	清酒	泰石酒造株式会社
古酒はんたばる25度	泡盛焼酎 焼酎甲乙混和酒	
回転つり針外し	釣具	越来造船
くるがねの小農具 (鎌・鍬・三股スコップ・根切り棒・へら)	農具	竹馬製作所



## 海中道路

Kaichu-doro Causeway

海の上を龍が這うように伸びる道は4つの島へのゲートウェイ。

The causeway, which extends like a dragon slithering over the sea, is the gateway to four islands.

# その先のうるまへ

沖縄本島中部東海岸から太平洋へ突き出した与勝半島。

海中道路の先には平安座島、宮城島、浜比嘉島、伊計島が橋でつながり、

津堅島へは平敷屋港から船が結んでいます。

沖縄の原風景が色濃く残るその先のうるまへ…。



## 屋慶名海峡

Yakena Strait

沖縄の瀬戸内海といわれるだけあり、  
小島間の海峡は波もなく穏やか。

Known as Okinawa's Seto Inland Sea, the Yakena Strait, which winds between small islands, is serene and tranquil.

## 津堅島

Tsuken Island is also known as "carrot island." Carrots are grown in most of the island's fields.

別名キャロットアイランド。  
島の畑の大半でニンジンが栽培されている。





## 浜比嘉島 Hamahiga Island

暮らしも自然も沖縄の原風景が色濃く残る。

The classic image of Okinawa is noticeably evident in both the daily life and nature of Hamahiga Island.

### On to Uruma Just Ahead

Yokatsu Peninsula juts out into the Pacific Ocean from the east coast of central region of the Okinawa main island. Bridges join Henza, Miyagi, Hamahiga and Ikei islands, which are accessible at the end of the Kaichu-doro Causeway, and boats departing from Heshikiya Port bring travelers to and from Tsuken Island. Then, it's on to Uruma just ahead where the scenery of classic Okinawa remains strong.



## 宮城島

## 宮城島

隣の平安座島との間には狭い水路がある。

Miyagi Island  
A narrow waterway runs between Miyagi and neighboring Henza Island.

Ikei Island The sea beyond Ikei Island continues out to the vast expanse of the Pacific Ocean.

伊計島 その先の海は太平洋の大海原へ続く。

## 伊計島



## 平安座島

## Henza Island

Henza Island once flourished as a way-stop for Maran trading ships.

かつてはマーラン船の中継地として栄えた。





## 豚、海を渡る

「鳴き声以外は全部食べる」と言われるほど深い沖縄と豚の関係。歴史を遡ると、もともと豚がいなかった沖縄に、中国から輸入されたのが14世紀の半ば頃といわれています。琉球王国時代になると、国王直々に豚の飼育を奨励しました。中国人は豚肉をよく食べますが、その中国から盛んに冊封使が来琉したため、ますます豚肉の需要は高まりました。沖縄の養豚はその専門職がいたわけではなく、一般の家庭でも広く行われていました。統計によると、戦前の沖縄では10万頭～11万頭の豚が飼育されていたようです。

一方、明治以降、移民としてハワイに渡ったウチナーンチュの中には養豚業で成功した人もいました。ウチナーンチュの養豚業者は繁殖技術に優れていたのが、その理由だといわれています。

歴史は時に壮大な皮肉を用意します。1941年、日本のハワイ真珠湾攻撃により太平洋戦争が始まると、ハワイでは米軍の増強により豚肉の需要が急増し、ウチナーンチュの養豚業者は大いに潤いました。一方、沖縄では戦争期間中に豚は食べつくされ、あるいは戦禍によってほとんどいなくなりました。

戦後、故郷の窮状を救うためにハワイのウチナーンチュは「沖縄救済会」を結成し、豚を沖縄へ

送る活動を始めました。沖縄の戦後復興と自立には、養豚の復活が重要と考えたのです。1948年8月、集まった5万ドルの資金で豚が購入され、計画が実行に移されました。米国陸軍が提供した船、ジョン・オーウェン号の甲板に作った豚小屋に550頭の豚を積み、太平洋の荒波を渡ったのは7人のウチナーンチュと米国陸軍の水兵ら23人。7人のウチナーンチュは、船酔いに耐え全身糞まみれになりながら必死に豚の世話をしました。船は24日間を要して与勝半島のホワイトビーチに到着。生き残った536頭の豚が陸揚げされました。海を渡ったその豚は、公平に沖縄全域に配布され、8年後には飼育頭数は戦前を上回る14万頭を突破しました。

この出来事は、2003年、55年の時(とき)を経て「海から豚がやってきた」というミュージカル(市教育委員会企画公演)になりました。ミュージカルは当初1回限りの公演予定でしたが、最終的には11公演、2004年には恩返しの意味をこめてハワイ公演が行われ、多くのハワイのウチナーンチュを喜ばせました。

豚を送り届けた“7勇士”の名は上江洲易男、山城義雄、渡名喜元美、仲間牛吉、島袋真栄、宮里昌平、安慶名良信。彼らの思いは今も、沖縄とハワイのウチナーンチュの絆を固く結んでいるのです。



ジョン・オーウェン号甲板の豚



嵐で破壊された甲板上の豚小屋(屋根)と豚



豚を降ろすところ



トラックに積み込まれる豚